

編集後記

青木孝夫

広島藝術学会も十四年目に入り、会員数は二百三十四名、年報の『藝術研究』も第十三号を数えるに至った。広島の外からの参加も普通のこととなった。大会・例会の発表者でも大島氏は九州から真野氏は東京から八田氏は島根からの来広であり、ベルリン自由大学のグンター・ゲバウア氏は広島大学に客員教授として滞在中であった。今回は大会、例会の発表者だけで10名を越える寄稿予定者がいた。大会活動に報告されているように武藤三千夫氏、谷藤史彦氏、赤坂梢氏の寄稿は、第十三回大会での発表に依る。八田典子、須崎朝子、ゲバウア教授の発表を訳した樋口聡、吉本由江、以上の四氏原稿は例会発表に依る。亀井克朗氏、真野宏子氏ならびに知念理氏の投稿は次の機会を待つことになった。これに昨年の大会で発表された崔朱延氏の原稿を翻訳した大山範子氏の原稿を含めて、都合八本の掲載となった。この八本は、いずれもレフェリー制度による査読を経た上での掲載である。

この度、菅村亨、青木孝夫、樋口聡、長田年弘の四名が新任の編集委員となった。前委員長の敷かれた路線を継承しつつ、IT革命をはじめとする時代の新たな流れから浮上した課題——ホーム・

ページの開設、デジタル印刷、投稿規定の見直し等——に対応してくてはならない。編集の仕事自体がその形と意味を変えつつある現代に於いて、年報・会報の発行を継続し、広島から国の内外に向けての意義ある情報の発信また受信を目指すためにも、編集事務局の情報体制の充実や能力の拡充が望まれる。会員諸氏のご支援を心からお願いしたい。

末尾ながら前委員長の水島裕雅委員のこれまでのご尽力に対し敬意を表明したい。

(あおき・たかお 広島大学)

藝術研究 第十三号 頒価一五〇〇円

平成十二年七月十日 印刷
平成十二年七月十一日 発行

編集 発行 広島芸術学会

〒739-0046 東広島市鏡山一―七―一
広島大学総合科学部比較文化研究会気付
TEL 〇八二四―二四―六三三三
or 六三三〇

印刷 (株)ぱぱりカプロモーション
〒733-0013 広島市西区横川新町一五―八
TEL 〇八二―九三―七三四四